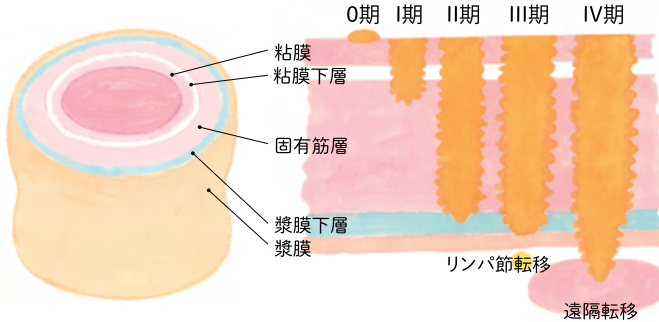
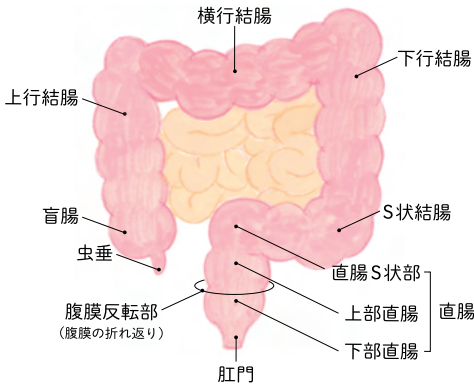




大腸がんとは

まずは「大腸がん」を、正しく理解しておきましょう



【メモ】大腸の壁5つの層のどこまでがんが達しているか(深達度)、リンパ節に転移しているかどうか、他の臓器に転移しているかどうか(遠隔転移)、などによって治療法が異なります。

大腸は食べ物の最後の通り道です。お腹右下から始まり、結腸と直腸に分かれていて、その壁は、内側から順に、粘膜、粘膜下層、固有筋層、漿膜下層、漿膜の5つの層で構成されています。

大腸がんは結腸・直腸に発生するがんです。腺腫という良性のポリープががん化したり、正常な粘膜から発生したりします。日本人はS状結腸と直腸にできやすく、粘膜に

できたがんは徐々に大腸の壁に侵入して壁の外まで広がり、お腹の中に散らばる腹膜播種を引き起こします。また、大腸の壁の中を流れるリンパ液によってリンパ節に転移したり、血液によって肝臓、肺など他の臓器に転移したりします。大腸がんから転移した肺がんや肝臓がんが先に見つかることもあります。



大腸がんの症状

早期では自覚症状はなく、放置されがちです

早期では自覚症状はほとんどなく、便に血が混じる(血便や下血)、便の表面に血液が付着するなどの症状が出てきます。痔などでも出るため放置されがちですが、大腸がんの場合、がんが進んでしまいます。早くがんを見つけられれば治る可能性が高まります。症状だけでは確定診断はできません。もしも症状があれば早めに消化器科、胃腸科、肛門科などを受診しましょう。

		右側大腸がん	左側大腸がん
腫瘍の位置		盲腸、上行結腸、横行結腸	下行結腸、S状結腸、直腸
進行した時に出現しやすい症状	腹痛・嘔吐	△	○
	貧血	◎	○
	血便	△	◎
	便柱狭小化	—	○
	排便習慣の変化	△	○
	腫瘤触知	○	△

◎ 発見の契機になりやすい症状 △ 稀な症状
○ 比較的起こりやすい症状 — 起こらない

日本人の大腸がんの状況



罹患者数は増加傾向 生存率から早期発見の大切さがわかります

○大腸がん罹患者数の順位(2020年全国がん登録)

全体1位 147,725人

男性2位 82,809人 ※1位 前立腺がん

女性2位 64,915人 ※1位 乳がん

○大腸がん死亡数の順位(2023年人口動態統計)

全体2位 53,131人 ※1位 肺がん

男性2位 27,936人 ※1位 肺がん

女性1位 25,195人

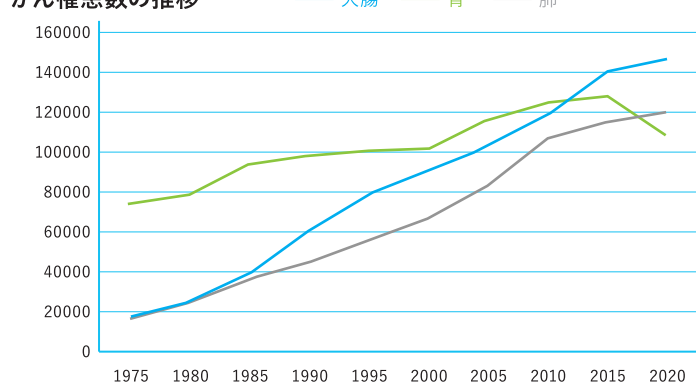
○ネット・サバイバル(純生存率)

・5年生存率(2014~2015年全症例) 70.9%

・10年生存率(2012年全症例) 58.1%

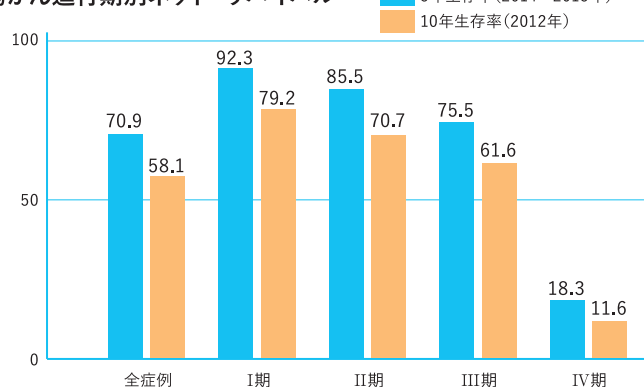
※ 純粋に「がんのみが死因」と状況を仮定して計算した生存率がネット・サバイバル(純生存率)です。国際的にも広く採用されている方法です。

がん罹患者数の推移



出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん罹患モニタリング集計(MCI))/全国がん登録

大腸がん進行期別ネット・サバイバル



出典: 国立がん研究センター 院内がん登録2014-15年5年生存率集計 院内がん登録2012年10年生存率集計

大腸がんは予防できる?

生活習慣の改善でリスクを下げるのが見込めます



大腸がんの発症は生活習慣との関わりが指摘されています。喫煙や飲酒、肥満のほか、加工肉や赤肉の摂り過ぎも大腸がんのリスクを高める可能性があります。生まれながらの体質(遺伝)も考えられます。

日本人の場合、大腸がんを含め、がんの予防には禁煙、節度のある飲酒、バランスの良い食事、身体活動、適正な体形の維持、感染予防が有効です。その中でも運動は大腸がんの予防に効果があることがほぼ確実だと言われています。食物繊維やカルシウムの摂取も効果の可能性があるとされます。